

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大阪情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園九州

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
工業専門課程	大学併修学科(4年制)	夜・通信	14 単位	13 単位	
	ソフトウェア開発学科(3年制)	夜・通信	10 単位	10 単位	
	ソフトウェア制作学科(2年制)	夜・通信	8 単位	7 単位	
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.ocs.ac.jp/other/pdf/j-kamoku.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園九州

1. 理事（役員）名簿の公表方法

希望者には学校備付の役員名簿を閲覧させる

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員 (1979. 4. 1～)	2025. 6. 27～2年以内に 終了する会計年度 のうち最終のものに 関する定時評議員会 の終結の時まで	経理・財務
非常勤	株式会社役員 (1981. 4. 1～)	2025. 6. 27～2年以内に 終了する会計年度 のうち最終のものに 関する定時評議員会 の終結の時まで	法人経営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園九州

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定し、シラバスを4月初旬に公表している。 実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目(科目名、単位数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法が統一されている。それらのシラバスは、要求に応じて、いつでも閲覧できるよう職員室に設置するとともに、学生には学生用校内ファイルサーバーを介して公表している。	
授業計画書の公表方法	希望者には学校備付のシラバスを閲覧させる
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業(対面・オンライン)のたびに出席確認(記録)を行っている。また、試験やレポート等の評価は、科目シラバスに明記された評価指標にそって適正に実施している。 最終評価(秀・優・良・可・不可)は点数基準を定め、「学生便覧」にて全学生へ周知している。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) GPAは導入していないものの、5段階の成績評価（秀・優・良・可・不可）を客観的な指標としている。なお、これらの指標は「(※)学生便覧」に明記し、全学生へ周知している。また、成績の分布状況については、科目成績の素点の平均を順位付けして、半期毎に通知する成績通知書に対象学科における「学年順位」を記載しており、学生は自分の成績が下位4分の1に入っていないかを把握することができる。 (※)「学生便覧」は、閲覧用として職員室に常設するとともに、年度初めに全ての学生へ配布している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	希望者には学校備付の指標を閲覧させる
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ＜卒業の認定方針＞ 教育理念及び目標とする人材像に基づき、実践的なIT人材として必要な以下の能力を身に付け、学則で定める修業年限以上在籍し、必要な各学科所定の単位数を取得し、かつ、必修科目の単位をすべて取得した学生に対して卒業を認定する。 ・情報システム開発の知識と技術を修得し問題解決に活用できる ・コミュニケーション力を持ち、他者と協働できる ・倫理観を持って行動できる ＜実施に係る取組＞ 単位修得および卒業要件の厳格な管理については、各年次の履修登録上限（CAP制）を設定し、計画的な学習を促している。成績評価状況は、1年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ、問題がある場合は適宜フォローを行いながら進級・卒業指導を行い、年度末の「進級・卒業判定会議」を経て、校長が進級・卒業を認定する。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	ホームページアドレス https://www.ocs.ac.jp/other/j_koukai/O1_gai_moku.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大阪情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園九州

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	希望者には学校事務室備付の「貸借対照表」を閲覧させる。
収支計算書又は損益計算書	希望者には学校事務室備付の「収支計算書」を閲覧させる。
財産目録	希望者には学校事務室備付の「財産目録」を閲覧させる。
事業報告書	希望者には学校事務室備付の「事業報告書」を閲覧させる。
監事による監査報告（書）	希望者には学校事務室備付の「監事による監査報告書」を閲覧させる。

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門	大学併修学科				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
4年	昼	1 2 4 単位	5 5 単位	1 1 2 単位	1 0 単位			
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
380 人		275 人	0 人	8 人	13 人	21 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。
成績評価の基準・方法
（概要） 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては「学生便覧」に明記することで、全学生へ周知している。
卒業・進級の認定基準

(概要) 学則で定める修業年限以上在籍し、必要な各学科所定の単位数を取得し、かつ、必修科目の単位をすべて取得した学生に対して卒業を認定する。
学修支援等
(概要) 中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
86 人 (100%)	0 人 () (%)	81 人 (94.2%)	5 人 (5.8%)
(主な就職、業界等) システム開発会社、システムインテグレータ、情報通信企業など			
(就職指導内容) 個別カウンセリング、就職適性診断、社会人基礎力向上、企業人および卒業生による就職講演会・セミナー、身だしなみ講座、校内合同企業説明会、面接指導、等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者(国) 57 名、応用情報技術者(国) 9 名、情報処理安全確保支援士(国) 4 名、システム監査技術者(国) 1 名、等			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
305 人	9 人	3.0%
(中途退学の主な理由) 病気、意欲低下等		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口など		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門	ソフトウェア開発学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
4 年	昼	9 3 単位	3 7 単位	7 2 単位	1 0 単位			
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90 人		81 人	0 人	3 人	18 人	21 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては「学生便覧」に明記することで、全学生へ周知している。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 学則で定める修業年限以上在籍し、必要な各学科所定の単位数を取得し、かつ、必修科目の単位をすべて取得した学生に対して卒業を認定する。	
学修支援等	
（概要） 中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
34人 (100%)	0人 (%)	34人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） システム開発会社、システムインテグレータ、情報通信企業など			
（就職指導内容） 個別カウンセリング、就職適性診断、社会人基礎力向上、企業人および卒業生による			

就職講演会・セミナー、身だしなみ講座、校内合同企業説明会、面接指導、等
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者(国)17名、応用情報技術者(国)3名、セキュリティマネジメント(国)1名等
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
82 人	6 人	7.3%
(中途退学の主な理由) 病気、意欲低下等		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	ソフトウェア制作学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	6 2 単位	3 4 単位	4 9 単位	8 単位		
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		46 人	0 人	2 人	19 人	21 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、別途定める「シラバス作成ガイドライン」に基づき、様式 及び 記載項目 (科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法が統一されている。
成績評価の基準・方法
(概要) 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 最終評価点に対する成績評価 (秀・優・良・可・不可) については、明確な点数基準を定めており、これらについては「学生便覧」に明記することで、全学生へ周知している。
卒業・進級の認定基準

(概要) 学則で定める修業年限以上在籍し、必要な各学科所定の単位数を取得し、かつ、必修科目の単位をすべて取得した学生に対して卒業を認定する。
学修支援等
(概要) 中途退学への取組として、担任、学年主任、学科長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
32 人 (100%)	5 人 (15.6%)	26 人 (81.3%)	1 人 (3.1%)
(主な就職、業界等) システム開発会社、システムインテグレータ、情報通信企業など			
(就職指導内容) 個別カウンセリング、就職適性診断、社会人基礎力向上、企業人および卒業生による就職講演会・セミナー、身だしなみ講座、校内合同企業説明会、面接指導、等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 基本情報技術者(国)13 名、応用情報技術者(国)2 名、情報処理安全確保支援士(国)1 名、セキュリティマネジメント(国)1 名、IT パスポート(国)4 名等			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
62 人	3 人	4.8%
(中途退学の主な理由) 病気、意欲低下等		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口など		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
大学併修 学科	100,000 円	460,000 円	346,000 円	各専攻共通
ソフトウェア 開発学科	100,000 円	774,000 円	346,000 円	各専攻共通
ソフトウェア 制作学科	100,000 円	774,000 円	346,000 円	各専攻共通
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
ホームページアドレス https://www.ocs.ac.jp/other/j_koukai/6-2_jikohyouka_kai.pdf		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）		
企業等委員、卒業生委員および有識者委員から構成される委員会が、学校の自己評価結果をもとに、学校運営を評価する。 主な評価項目は、教育理念・目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献である。 その評価結果を教育活動その他の学校運営改善等に生かし、学校運営の客観性と透明性を高めることを目的とする。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
パナソニックハウジング ソリューションズ株式会社	2024. 6. 1～ 2027. 3. 31 (任期更新)	企業委員
株式会社 エスシーシー 近畿オフィス オフィス長	2015. 8. 3～ 2027. 3. 31 (任期更新)	企業委員
株式会社 まちんぐ 代表取締役	2017. 6. 23～ 2027. 3. 31 (任期更新)	有識者委員
有限会社 正行興産 代表取締役	2015. 7. 20～ 2027. 3. 31 (任期更新)	卒業生
株式会社 コムウェイ	2015. 8. 3～ 2027. 3. 31 (任期更新)	卒業生
第三者評価結果の公表方法		

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページアドレス https://www.ocs.ac.jp/other/j_koukai/09_gakouhyouka.pdf
(備考) 第三者評価は未実施です。

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページアドレス https://www.ocs.ac.jp/other/j_koukai/09_gakouhyouka.pdf
